



シャンダイア物語

第六部 統治の指輪

福田 弘生

Anima Solaris



第三十四章

『剣の道』

セルダンは目の前に立った男を見つめた、この男がガゼヴオックを除けば最強の敵であるはずだった。黒い衣の頭の覆いを深く下ろしているため、夜では人相がよくわからない。ただ、その姿は禍々しい気配に満ちあふれている。

「いいでしょう。しかしあなたとの戦いはここエルセントでは行わないように、僕の友人がユマールの将ライケンから忠告されている。しかし僕は今ここを離れるわけにはいかない」

黒い覆いの中から品の良い若い男の声が答えた。

「ここで戦うつもりは無い、しかしどうしても戦ってもらわなければならぬのだよ」

その時馬のいななきが聞こえ、アーヤの乗馬フォラに引きずられるようにして、馬と話せる少女エレーデがやって来た。そして黒い冠の魔法使いに気がついて身をすくませた。フォラがヒヒンといなないてエレーデを力づけた。

黒い冠の魔法使いがフォラを見て驚いたような声を上げた。
た。

「とても古い魔法だ、その馬は光と闇の根元である宇宙神の魔法を身にまもっている」

エレーデは黒い冠の魔法使いに目を向けてしばらく迷っていたが、思い切ってセルダンに言った。

「セルダン王子、フォラが伝えたい事があるそうです」
セルダンはフォラの長い顔を見上げた。

「何だいフオラ」

エレーデが代わりに言った。

「フオラはこう言いました、皆が王子を必要としているだけではなく、王子もまた皆を必要としているのだと」

セルダンはハツと気がついたようにエレーデを見た。

「他には何か言ってるかい」

フオラがエレーデの耳元に顔を寄せて、バフバフと口を動かした。エレーデが読み上げるように伝えた。

「攻めるだけでは戦いに勝つ事は出来ない、相手の攻撃を受け止める事、耐える事もまた必要だ」

セルダンは黒い冠の魔法使いを振り返った。

「僕達の戦いはそういう戦いになるのかな」

興味深そうに耳をすませていた魔法使いが答えた。

「それは君次第だ、今のは馬の助言か」

「いや、シムラーでクラハーン神が僕に言った言葉だ。説明するのは面倒だけど、ある理由で僕が忘れていた事をフオラが適切な時に教えてくれる事になっていったんだ」

「なる程、ならばここまで戦いを引つ張ってきた君が、戦場を離れる時が来たという事だ」

「そうらしいな」

セルダンはブライスに顔を向けた。

「頼む、皆に頼むとだけ伝えてくれ。僕は行かなければならないようだ」

ブライスはあわてて手を振った。

「大丈夫か、皆を呼んで来て一緒に戦ったほうがいいんじゃないのか、ここには六つの聖宝のすべてがあるんだぜ」

「いや、まず僕が僕の戦いを終えないと、聖宝を集めても力にならないと思う」

「じゃあエルネイア姫だけでも呼んで来よう、このまま知らせないでお前を行かせてしまおうと、俺がエルに殺されてしまおう」

セルダンは首を振った。

「いや、エルに知らせたら僕を行かせてくれないよ」

セルダンは振り向いて黒い冠の魔法使いを見た。魔法使いはうなずくと、ふと気が付いたようにブライスに言った。

「君は光と闇の両方を持っているらしい、君の未来がぼんやりと私の頭の中に浮かんできた」

ブライスが驚いた。

「貴様には見えるのか、光の勢力者に見えなかった俺の未来が」

「いや、見えるという程では無いが何かを感じる」

ブライスは嬉しそうな顔をした

「いやそれで十分だ、俺には未来など無くて、この戦いのどこかで死ぬのかと思っていた」

黒い衣の中からかすかな笑い声が出た。

「まさか、君がすでに別の旅を始めているだけだ。さあ行くぞ剣の王子」

セルダンが剣の柄をガチャリと叩いた。

「どこに行くんだ」

黒い冠の魔法使いが言った。

「北へ、私が滅ぼしたソーカルスのベクド大聖堂へ」

(第三十五章に続く)

著者紹介

福田 弘生 (Fukuda Hiroo)

<http://www.sf-fantasy.com/magazine/novelist/h-fukuda.html>

作品紹介

http://www.sf-fantasy.com/magazine/novel_/chandaia/index.shtml

とうち ゆびわ
統治の指輪 — シャンダイア物語 —

2007年10月8日 第1版第1冊発行

著者 福田 弘生 (Hiroo Fukuda)

発行人 中条 卓

発行所 アニマソラリス

URL <http://www.sf-fantasy.com/magazine>

制作 松谷 和加子 (電脳工房 りっくらっく)

表紙 三上 央子 (電脳工房 りっくらっく)

本書の文章及び図面、イラストに関しては一切の無断転載禁止させていただきます。

希望される場合はメール (master@sf-fantasy.com) にてご相談ください。